

新鮮な 気持ち



ジェシカ・ラーセン

ほんとうにあったお話をもとに書かれました

エストニア

「一ユースよ!」ラスムスを学校にむかえに来たエマ(お母さん)は言いました。二人は、色とりどりの建物ながらぶせまい道を一緒に歩いていました。

「夕食は牛肉とじゃがいものサラダなの?」ラスムスは期待をこめて聞きました。先週、ラスムスの7歳の誕生日に食べたばかりでした。でも、牛肉とじゃがいものサラダと付け合わせのすづけのニシンならいつでももっと食べたいとおもいました。

エマはにっこりと笑いながら首をふりました。「今朝、二人のわかい女性にバスで出会ったの。宣教師よ。今晚うちに来て、教会について話してくれるのよ。」

ラスムスは物めずらしそうに見上げました。宣教師にはまだ会ったことがありません。

寝室でおもちゃの消防車で遊んでいると、宣教師がやって来ました。「テレ! テレ! こんにちは!」とエマにあいさ

つをしながら、アパートの部屋に入って来ました。宣教師は重いブーツをぬいで、エマがお客さん用にとっておいたスリッパをはきました。エマは、オレンジ色のソファに宣教師を案内しました。しかし、ラスムスはドアのそばでしりごみしていました。

せの高い方の女性がラスムスに気づき、ほほえみかけました。黒い名札には、ウーデ・クレーグ(クレーグ姉妹)と書いてありました。「お誕生日をむかえたばかりだってお母さんから聞いたわ」とクレーグ姉妹は言いました。「わたしたいものがあるの。」クレーグ姉妹は小さなカードを取り出しました。ラスムスはそれをじっと見ました。

それは、男の人の絵でした。男の人は白い衣を着て、うでを広げていました。

「これがどなたか知ってる?」とクレーグ姉妹はたずねました。

ラスムスはその男の人の名前を知りませんでした。見たことの無い絵でしたが、絵の中の男の人は親切で強い人のように見えました。「王様だと思う!」とラスムスは言いました。

二人の宣教師はにっこりしました。「そうなの、王様なのよ! 王の王であられるお方で、名前はいエス・キリストとおっしゃるの。」クレーグ姉妹は、青い表紙の本を取り出しました。「モルモン・ラアマット(モルモン書)はいエスさまについての本なのよ。」

ラスムスとエマは、ラスムスが学校に行く前に一緒にモルモン書を読み始めました。学校では、ラスムスとクラスの子たちは自然の中を歩いた後、昼寝をしました。学校が終わると、ラスムスとエマは何度も宣教師と会って、モルモン書の読んだところについて話し合いました。時々、エマはクリングルというシナモン味のパンをみんなにふるまいました。週末になると、ラスムスとエマは自転車に乗ったり、浜辺でピクニックをしたりしました。森やお気に入りの川沿いをどこまでも歩いて行くこともありました。

あるとき森を散歩していると、エマはバプテスマを受けたいと思っている、とラスムスに言いました。ラスムスにはにっこりしました。宣教師はエマに、バプテスマを受けるべきかどうかのよう言っていました。お母さんは答えを得たようです。

「どこでバプテスマを受けるか分かったわ!」エマはにっこりとそうラスムスに言いました。「どこだと思う?」

ラスムスは、宣教師がバプテスマについて教えてくれたときのことを考えました。宣教師は、イエスとバプテスマのヨハネが川にいる絵を見せてくれました。

「川!」とラスムスはさけびました。「ぼくたちのお気に入りの川だ。」



1週間後、ラスムスは宣教師や教会の人たちと一緒に川の土手に立っていました。エマがバプテスマを受けるところでした。エマは、イエスがされたのと同じように、水にしずみみました。水から上がったエマはほほえんでいました。ラスムスはこの瞬間を永遠に覚えていたいと思いました。青い水と、緑の草の中にさく白い野の花と、お母さんのほほえみを。

後で、宣教師が持ってきてくれたクッキーをみんなで食べているときに、「バプテスマを受けたときにどんな気持ちでした?」とお母さんに聞くと、

「すばらしい気持ちよ」と言いました。「永遠に川の中になりたいと思ったわ。とても新鮮な気持ちになっているの!」お母さんはしっかりとラスムスをだきしめました。

「次の誕生日には、お母さんとイエスさまみたいにほくもバプテスマを受けたいな」とラスムスはお母さんに言いました。「ほくも新鮮な気持ちを感じたい!」●

このお話を書いた人は、アメリカ合衆国テキサス州に住んでいます。